



中国四国

第32号
平成28年4月発行

<http://www.mod.go.jp/rdb/chushi/>

IWAKUNI日米交流合同コンサート



錦帯橋のミニチュア作成を体験するM. C. ベリー・ハイスクール

CONTENTS

- | | |
|--------------------------|----------------------------------|
| ① IWAKUNI日米交流合同コンサート | ⑪ 中国四国防衛局入札監視委員会 |
| ② 岩国基地ハッシュハウスマスコミ公開 | ⑫ 前中国四国防衛局入札監視委員会委員に対する 感謝状贈呈 |
| ③ 第26回防衛セミナー | ⑬ コンプライアンス講習 |
| ④ 岩国市ごみ焼却施設建設工事【安全祈願祭】 | ⑭ 入札談合防止教育 |
| ⑤ いわくに消防防災センター【竣工式】 | ⑮ 平成27年度中国四国防衛局初級係員フォロー研修 |
| ⑥ 岩国錦帯空港3周年記念式典及び民間機の便増 | ⑯ 中国四国防衛局有志による自治体等開催 マラソン大会参加 |
| ⑦ 岩国基地協議会(第11回) | ⑰ 人事異動(28.1.12及び28.4.1) |
| ⑧ 平成27年度中国四国防衛施設地方審議会開催 | |
| ⑨ 第61回岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究員会 | |
| ⑩ 本瓦造船における進水式 | |



Chugoku-Shikoku
Defense Bureau

編集・発行 中国四国防衛局
〒730-0012 広島県広島市中区上八丁堀6-30
Tel. 082-223-7109



IWAKUNI日米交流合同コンサート

日米の児童による合奏・演奏の様子



中国四国防衛局は、2月20日、山口県岩国市のシンフォニア岩国コンサートホールで「IWAKUNI日米交流合同コンサート」を開催した。このコンサートは、米海兵隊岩国航空基地周辺の市民と基地関係者の相互理解を深めるため実施しているもので、今回が6回目となる。

開演にあたり、主催者の菅原隆拓中国四国防衛局長は、「本日を迎えるに当たり、日米とも各学校の生徒たちは一生懸命に練習を重ねるとともに、合同練習や交流会を通し、最初はぎこちなかった生徒たちも次第に交流を深めることができ、その様子に日米の明るい将来の姿を感じることができました。」と挨拶した。

来賓の福田良彦岩国市長は「日本とアメリカの児童生徒のみなさんで、親善と交流を図ることを目的にこのようなコンサートが開催されますことは、大変素晴らしいことであり、私自身もとても嬉しく思っています。」と祝辞を述べ、岩国航空基地司令官のロバートV. ブシェー大佐は「私がこのような交流行事で挨拶をさせていただく際、同じような誇張した言葉を使いがちです。それは想像力の欠如によるものではなく、協力、友情、互いに対する尊敬の念、支援と言った表現は、実際の地元岩国と基地の関係をよく表している言葉だと思います。今日のコンサートのような行事を通して、お互いについて学び合い、類似点を発見し、互いの文化の違いを尊重し大切にすることができます。」と挨拶した。

当日は、岩国市、大竹市、和木町、周防大島町及び米海兵隊岩国航空基地の生徒約220名が参加し、約720人の観客を前に、それぞれコーラス、和太鼓、吹奏楽などを披露し、その中で日米の生徒たちの共演も見られた。

コンサートの第1部では、M.C.ペリーエレメンタリースクールによる「All You Need Is Love」の演奏で開演。続いて、岩国市立柱野小学校が和太鼓で「響(ひびき)」を実演。M.C.ペリーエレメンタリースクールと岩国市立柱野小学校と周防大島町立三蒲小学校が「三蒲太鼓コラボバージョン流れうち」を共演。周防大島町立三蒲小学校は「三蒲太鼓」で息の合った実演。和木町立和木小学校は「ラ・マンチャの男」を元気いっぱい演奏。最後に、M.C.ペリーエレメンタリースクールと和木町立和木小学校が「風になりたい」を共演し会場を盛り上げた。

第2部では、大竹市立大竹中学校が「Can't Take My Eyes Off Of You」、岩国市立川下中学校が「リトル・マーメイド」などを演奏し、M.C.ペリーハイスクールは、コーラスやバンド演奏など多彩な演目を披露した。

フィナーレでは、参加者全員で、ライオンキングのオープニング曲として有名な「サークル・オブ・ライフ」を合奏、合唱し、会場を盛り上げ、演奏後には、日米の保護者や観客らが、大きな拍手により生徒達の素晴らしい演奏を称えた。

日米合同コンサート 参加校紹介

①M. C. ペリー・エレメンタリースクール



②岩国市立柱野小学校



③周防大島町立三浦小学校



④和木町立和木小学校



⑤大竹市立大竹中学校



⑥岩国市立川下中学校



⑦M. C. ペリー・ハイスクール



岩国基地ハッシュハウスマスコミ公開

米軍岩国基地で12月14日に、地方自治体や報道関係者を対象に、最新型の航空機消音施設(ハッシュハウス)を報道公開しました。米軍岩国基地は、日々の運用を行うにあたり地元を与える騒音の影響を軽減すべく出来る限りの努力を続けています。最新の技術を取り入れたハッシュハウスの完成は、当該施設をおよそ1,000メートル地元の住宅地より引き離れた場所へ移設し、地元に対する騒音軽減対策の一つでもあり、自治体や報道関係者に理解していただくために企画されました。

報道関係者は、当日岩国市役所に集合し、米軍の用意したバスで岩国基地に移動しました。車中にて米軍岩国基地報道部長のライル・L・ギルバート少佐から航空機消音施設について丁寧な説明を受け当該施設区域に到着しました。

新設された施設は①航空機から取り外したジェットエンジンを単体でテストする建物、②航空機がエンジンを搭載したままテストを行う建物、③両方のテストを行う建物の3棟です。

当日公開された建物①では、機体から取り外して台座に固定したエンジンが取り付けられて、コントロールルームで最新の機器を操作しながらエンジンの不調を見逃さない仕組みとなっています。②では、FA18ホーネット戦闘機の実機テストが行われました。当該施設では、騒音効果を確認するため建物外に出たが、聞こえるのは施設内に空気を取り入れる音のみでエンジンの音は聞こえませんでした。(新設した消音装置の性能は、一番近い敷地境界である基地の北側の住宅付近、当該施設から約1,000メートルの場所において、夜間で55dB以下、また、基地の西側の住宅付近、当該施設から約1,500メートルの場所において、夜間で45dB以下の性能を有しています。)

公開終了の最後、報道関係者は施設管理責任者に対し、運用面等について質問をしていました。



第26回防衛セミナー

第1部「自然災害とワタシ ～南海トラフ巨大地震の備えと想定外～」



講師 陸上自衛隊 第14旅団長 陸将補 柴田 昭市

第2部「南海トラフ巨大地震に備えて」



講師 愛媛県民環境部防災局 危機管理監 薬師寺 隆彦

平成28年3月15日、中国四国防衛局は、愛媛県松山市のホテルメルパルク松山「ラフィーネ」において、「自然災害とワタシ～南海トラフ巨大地震の備えと想定外～」をテーマに、第26回防衛セミナーを開催しました。

松山市での開催は2回目となり、愛媛県及び松山市から後援を頂きました。当日は、155名の方々が来場され、講演後には質疑応答が行われました。

第1部では、陸上自衛隊第14旅団長の柴田昭市陸将補から「平成27年度日米共同統合防災訓練で見たこと～自然災害発生時に自衛隊が出来ること～」と題し、東日本大震災における自身の経験談、災害派遣の際の自衛隊の役割及び南海トラフ巨大地震が発生した場合の被害想定に基づく災害対処訓練などについて、講演を行いました。

続いて第2部では、愛媛県民環境部防災局危機管理監の薬師寺隆彦氏から「南海トラフ巨大地震に備えて」と題し、県が試算した南海トラフ巨大地震が発生した場合に想定される具体的数値を交えた被害規模や、公助・共助・自助をはじめとする地域防災力の重要性などについて、講演を行いました。

聴講された方々からは、「大地震が起きた際に少しでも被害を軽減するためには地域の防災力も必要なことがよく理解できた」、「自助・共助の重要性を再認識できた」、「災害があった場合に自分のやるべきこと等を細かく講演して頂いてよかった」、「今回のセミナーで学んだことを周りにも伝えるとともに、そのような場面(災害)に遭ったときの対処を考えておこうと思った」、などの感想や意見を頂きました。

岩国市ごみ焼却施設建設工事(安全祈願祭)

平成28年2月10日、岩国市日の出町地内において、着手を迎えるごみ焼却施設建設工事の安全を祈る安全祈願祭が執り行われました。

本事業については、福田岩国市長から、在日米軍再編に係る地域振興策として要望を受け、防衛施設周辺の生活環境を整備する一環として、平成23年度より、事業費の一部を助成しているものであり、平成31年度の供用開始を目標としています。



いわくに消防防災センター【竣工式】



平成28年2月12日、岩国市愛宕町において、いわくに消防防災センターの竣工式典が挙行されました。

本施設は、岩国市が愛宕山地域において整備を進めている「医療・防災交流拠点」の中核施設であり、消防庁舎や訓練施設に加え、岩国地域の災害特性を踏まえた体験学習をすることができる「岩国市防災学習館」を備えています。

本施設を含む事業についても、在日米軍再編に係る地域振興策として、平成23年度より、事業費の一部を助成しています。

岩国錦帯空港開港3周年記念式典及び民間航空機の便増



平成27年12月13日、岩国錦帯橋空港において、岩国錦帯橋空港開港3周年記念式典が挙行され、菅原局長も式典に参加しました。

また、平成28年3月27日から、現行の羽田便1日4往復に加え、羽田便1往復の増便及び那覇便1往復の新規就航が決定し、1日6往復で運航が行われています。

岩国錦帯橋空港は、今般の増便により、今後、岩国市を始めとした近郊地域の更なる広域観光の振興及び地域経済の活性化に結びつくことが期待されています。

岩国基地協議会(第11回)



協議会風景

岩国市、山口県及び中国四国防衛局は、平成28年3月23日、米軍岩国基地に係る安心・安全対策等について三者が共同して問題解決を図るため、第11回目となる「岩国基地に関する協議会」を岩国市役所で開催し、岩国市から福田良彦市長、山口県から大谷恒雄総務部理事、中国四国防衛局から菅原隆拓局長らが出席しました。

福田市長は、「空母艦載機の移駐時期である2017年を1年後に控え、安心・安全対策についての協議は一層のスピード感をもって、問題解決を図っていく必要がある。まだ解決していない項目については、引き続き、国において誠意をもって取り組んでいただくと同時に、これまで同様、国・県・市の緊密な連携のもと、更なる協議を進めてまいりたい。」と挨拶しました。

菅原局長は、「防衛施設を安定的に使用するためには、地元の皆様方の御理解と御協力が不可欠であります。そのためには、岩国飛行場周辺の皆様方が安心して、かつ安全に暮らせる環境を確保することが必要であり、防衛省として極めて重要な施策であると認識しております。当局としては、これらの安全安心対策について、誠心誠意対応してまいりたい。」と挨拶しました。

この協議会では、米軍岩国基地に係る安心・安全対策に係る要望、米軍構成員による事件・事故の防止、航空機騒音の状況等の現状や取組について報告がなされ、それぞれについて協議が行われました。



協議会後の共同記者会見に臨む

(左から) 菅原中国四国防衛局長、福田岩国市長、大谷山口県総務部理事

平成27年度中国四国防衛施設地方審議会開催



菅原局長挨拶



野坂会長挨拶

平成28年2月24日、KKRホテル広島において、野坂文雄会長(もみじ銀行代表取締役頭取)をはじめとする6名の有識者の委員と菅原局長ほか担当職員が出席し、中国四国防衛施設地方審議会を開催しました。

審議会において、当局伊藤企画部長から米陸軍呉第6突堤移転事業について説明を行い、紅林調達部長からは、Fバース施設整備事業について説明を行いました。

これに対して、委員から様々なご意見をいただき、有意義な審議会となりました。



呉地方総監表敬



潜水艦見学



潜航操縦訓練シミュレータ体験

午後からは、委員に対して防衛施設の運用及び防衛行政への理解を深めて頂くことを目的として、現地研修を実施しました。

呉地方総監部において、池田総監表敬後、管理部長から概況説明を受け、係船堀地区に移動、潜水艦の艦内を見学しました。

また、潜水艦教育隊においては、潜航操縦訓練のシミュレータを体験しました。

第61回岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会

中国四国防衛局は、平成28年2月26日、第61回岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会をホテルセンチュリー21広島にて開催しました。同委員会は、岩国飛行場滑走路移設事業に伴い消滅した藻場・干潟について、その回復措置の検討に必要な指導や助言を得るために設置されています。今回の委員会では、中国四国防衛局から平成27年9月～12月の周辺藻場・干潟における環境調査結果、藻場・干潟回復モニタリング調査結果、アマモ場回復工事に係るモニタリング調査結果、平成28年度藻場・干潟回復等調査計画(案)について報告を行い、学識経験者の各委員から調査結果及び調査計画案に対する評価や指導・助言をいただきました。



本瓦造船における進水式

えい船「YT05」進水式

平成27年度、当局管内で6隻の支援船の建造が行われました。その中で最後の進水として平成28年1月12日に福山市鞆の浦の本瓦造船(株)において「えい船(260トン型)」の進水式典が執り行われました。

当日、菅原中国四国防衛局長が臨席され、神事が厳かに行われ、「YT05」命名の儀に続き、進水の儀では進水斧が振り下ろされ、支綱が切断され、船は新たな船出として瀬戸内海に進水しました。菅原局長は、「海洋国家である我が国の周辺海域における安全保障、島しょ防衛には海上自衛隊の艦船は不可欠、それを支える支援船の役割は増すばかり、事故等なく作業を進め、期待に違わない艦(ふね)に仕上げていただきたい」と述べられました。

その後、「YT05」は各種装工事、海上公試を経て3月18日に海上自衛隊に引渡され、舞鶴港務隊所属となり大型護衛艦の栈橋への着岸等に活躍しています。



中国四国防衛局入札監視委員会(呉総監部で開催)

平成28年3月9日、海上自衛隊呉地方総監部において平成27年度第4回中国四国防衛局入札監視委員会が開催されました。

中国四国防衛局入札監視委員会は、中国四国防衛局が発注する建設工事等及び中国四国防衛局の管轄区域に所在する他の契約実施機関が実施する入札及び契約について、入札及び契約の過程並びに契約の透明性を確保するため、第三者で構成された委員会、四半期毎に年4回開催されています。

今回は、中国四国防衛局が発注する建設工事等に係る審議のほか、海上自衛隊が実施した入札・契約に係る審議を実施するにあたり、審議事案を現地で説明することにより、海上自衛隊に関する理解を深め、今後の委員会の審議がより一層有意義なものとなることを期待して、海上自衛隊呉地方総監部において開催したところです。



前中国四国防衛局入札監視委員会委員に対する感謝状贈呈

平成28年2月8日、爲末和政中国四国防衛局入札監視委員会委員に菅原中国四国防衛局長から感謝状を贈呈しました。

爲末氏は、長きに亘り中国四国防衛局入札監視委員会委員として在任され、卓越した見識のもと貴重なご意見をいただき、中国四国防衛局における契約の透明性の確保に大きく貢献されました。



コンプライアンス講習・入札談合防止教育

平成28年1月27日、中国四国防衛局において、調達等関係業務及び補助金等関係業務に従事している職員を含む全職員に対して、コンプライアンス講習を行いました。この講習では、組織の精強性や国民からの信頼性の維持・向上を目的として、職員一人ひとりが法令等を遵守することや社会のルールから逸脱しないよう教育を行いました。

また、平成28年2月15日、同様に、入札談合防止に関する関連法令等の遵守及びその知識の習得に関する教育を行いました。

この教育では、公正取引委員会事務総局中国支所に依頼し、「入札談合の防止に向けて」と題して講話を行い、入札談合防止の教育として大変有意義な教育となりました。



平成27年度中国四国防衛局初級係員フォロー研修

平成28年3月14日、元アナウンサーの外部講師を招いての初級係員フォロー研修を実施しました。

本研修は、入省後1～2年経過した職員28名を対象に、本田祐美講師から「職場の活性化・仕事効率化を上げるための「対人関係力」スキルアップ」と題して、仕事の進め方や上司・同僚とのコミュニケーションなどについて講義していただきました。研修生からは、「コミュニケーションの大切さを学べて良かった」、「業務に慣れてきた中で自分の行動に反省しなければならないことに気付く良い機会になりました。」などの声が聞かれました。



中国四国防衛局有志による自治体等開催マラソン大会参加



(和木町 蜂ヶ峯
クロスカントリー 28.1.11)

(掲載されている写真
はごく一部です)

当局の走ることが大好きな職員が参加した平成27年度各マラソン大会です。

各大会では、自分の走力に合わせて距離やペースで走り、脱落者無しで、全ての大会で完走しました。

沿道では、地元の皆様の温かい声援を頂きありがとうございました。



(第2回runinfoサタデーサンセットランinエディオンスタジアム広島 27.6.27)



(スイーツマラソン広島大会 27.11.3)



(マツダマラソン大会 28.3.6)



(深山ファミリー健康マラソン大会 28.2.21)

人事異動(平成28年1月12日付 28年4月1日付)



防衛補佐官(1等海佐)
松尾 淳 28.1.12

1月12日付、海上幕僚監部から着任しました。

艦艇幹部であり、呉や舞鶴の部隊経験が長く、当防衛局管内の海は、特に馴染みの深い海域であります。

艦乗りとしての勤務を生かし、防衛補佐官として局長を適切に補佐できるよう努めて参りますので、宜しくお願いします。



会計監査官
櫻井 慎二 28.4.1



調達部次長
野崎 清隆 28.4.1



調達部装備課長
押野 耕一 28.4.1



企画部地方調整課長
稲葉 稔 28.4.1



岩国防衛事務所長
森川 顕臣 28.4.1

お詫び

訂正

中国四国広報第31号5面の「中国四国防衛局長感謝状贈呈(企業6社)」で「井森興業 株式会社」とあるのを「井森工業 株式会社」に訂正します。